

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		*	*	*
		スーパー（店長）	販売量の動き	・10月の売上と販売量はそれぞれ前年から4%のダウンとなったが、3か月前との比較では9月に引き続いて上向き傾向になっている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・10月後半になり暖房機がよく売れてきている。暖房機能のあるエアコンもよく売れている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年よりも新車の受注が増えている。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・これまで不振が続いていた、韓国、台湾、中国などの外国人観光客の利用が低価格ながらも回復基調にある。また、プロ野球のクライマックスシリーズと日本シリーズによる特需を要因にWeb販売を中心とした国内の個人旅行者もプラスとなっている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・利用客数、売上ともに前年を上回っており、前月と比べると良い動きになってきている。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・新商材の供給が安定してきており、販売量も増加している。ただ、今後も販売量が増加し続けることはないため、一過性のものとも考えられる。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・3か月連続して、利用客数が前年を10%以上上回る状態が継続している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・現状、客の反応はこれまでと変わらない状態で推移している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・プロ野球の日本シリーズの視聴率が良いことから、家庭でテレビ観戦をしている客が多く、消費動向に影響が生じている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・道央及び道東の台風被害の影響がみられる。また、海水温の変化が影響しているのか、魚などが獲れなくなってきたことも影響している。特に、するめいかなどは落ち込みが大きく、毎年、秋に当地に遊びに来ていた漁業者から、今年は行くことができないと連絡があったほどである。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数が前年比96%と前月に続き、前年割れが続いている。特に外国人観光客は前年比80%台後半まで落ち込んでいる。地元客は回復傾向が感じられるものの、客単価の低下傾向は変わっていない。急激な気温の低下により冬物の動きは強まったが、ラグジュアリーと比べてボリュームゾーンの動きが弱いままである。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・来客数が前年から微減で推移し続けている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・来客数の減少傾向には歯止めがかかってきたが、依然として買上客数、買上単価は横ばい又は若干の減少傾向にあり、前年並みの売上をキープするのがやっとの状況にある。
		百貨店（営業販売促進担当）	来客数の動き	・来客数の減少が続いている。衣料品が若干持ち直してきたが、家庭用品、身の回り品、催事場の売上が苦戦傾向にある。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は順調に前年を上回って推移しているが、客単価の伸びが鈍化している。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・客1人当たりの平均買上点数が9～10月とやや減少傾向にある。特に生鮮食品などは地元及び本州での台風の影響などで相場がかなり上昇していることもあり、買上点数の減少が目立っている。なかには相場高に伴い売上が増加しているカテゴリーもあるが、総体的には買い控えの影響が大きい。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・道内では台風による被害が各分野に悪影響を及ぼしている。水産物や農作物への影響に加えて、鉄道や国道の復旧にまだ時間がかかることから、物流コストの上昇、ガソリン価格の高騰などもみられる。また、温泉ホテルなどでは予約のキャンセルにより観光客が減少している。これらのことから街中が景気減退ムードに包まれている。	
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回って推移している。	
	家電量販店（経営者）	販売量の動き	・消費の低迷が続いている。特にテレビの販売量が落ち込んでいる。売れ筋のLED照明は単価がダウンしていることで売上の増加につながらない。	

乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新車、中古車とも、受注量が低調に推移している状況は変わらない。新車販売は受注残に助けられたことで前年をクリアしたが、中古車の不調は依然として深刻である。サービス部門は車検対象台数が回復するにつれ、堅調な動きとなってきた。全体的には、景況感に大きな変化はみられない。
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・10～12月は新型車の導入効果が期待できる。
自動車備品販売店 (店長)	競争相手の様子	・当店も近隣競合店も冬タイヤ、カーナビなどの高額商材の客単価が低下している。9～10月の累計でみて、売上は前年割れとなる見込みである。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	販売量の動き	・石油製品については価格が安定しており、販売量も堅調に推移している。
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・業界の人手不足が顕著である。当店も人手不足のため、スタッフのできる範囲で客の入込をコントロールしているが、待ち時間の長さから帰ってしまう客もみられる。売上は前年を2%下回った。
タクシー運転手	来客数の動き	・10月の売上はタクシー1台当たりでは5%ほど前年を上回っているものの、乗務員不足でタクシーの稼働率が落ちてきていることから、会社の売上は前年を若干下回った。
タクシー運転手	来客数の動き	・イベント関係や法人関係での来客用のタクシー手配が順調だったが、観光での利用がやや減少した。
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・固定インターネット回線への引き合いは札幌圏の大都市を中心に順調であるが、無線インターネット系の契約の他社への流出が予想以上に多くみられている。
美容室(経営者)	お客様の様子	・来店周期並びに客の支払金額がともに固定化しており、大きな変動のみられない状況が続いている。
美容室(経営者)	販売量の動き	・極端に売上が良い又は悪いということがあまり感じられなかったため、全体としては変わらない。
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・当地は北海道新幹線の効果で引き続きたくさんの観光客が訪れているため、ホテル、旅館、飲食店などの景気は良いが、個人消費の方にはまだお金が回ってこない状況にある。
住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームに訪れる客の人数に大きな変化はみられない。また、それらの客の様子をみても、良くもなければ悪くもないという状況であり、景気の方向性がみえてこない。
商店街(代表者)	来客数の動き	・例年になく早い初雪で外出を控えたかのように来客数が減少している。客単価についても、高額品の売上が落ち込んでいるなど、一段とデフレの様相になっている。
商店街(代表者)	来客数の動き	・8月の台風の影響が依然として残っている。毎年10月は客が出控える時期に当たり、地域住民及び周辺町村からの買物客が減少する傾向にあるが、今年は例年以上に商店街を訪れる客が少ない。周辺の駐車場に駐車している車も例年の7～8割程度であり、買物袋を提げて歩いている人の数も減少している。
商店街(代表者)	それ以外	・いかや野菜の価格高騰により、当地の景気動向は停滞している。
一般小売店 [酒](経営者)	来客数の動き	・来客数が少なくなっているうえ、買上単価も良くない状況にあり、厳しい売上となっている。
スーパー(店長)	お客様の様子	・野菜の高騰などにより、客の節約志向が高まっており、購入点数が減っている。
スーパー(役員)	販売量の動き	・水産物、農産物の値上がりが多いが、客が欲しくても手が出ない状況となっている。
コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・来客数はある程度維持できているが、客単価が低下傾向にあり、売上が十分に取れていない。特にアルコールの減少が顕著であり、大容量商品の販売量も減少傾向にある。
コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・たばこやビールなどの嗜好品の売上が減少している。
コンビニ(オーナー)	来客数の動き	・10月の売上は前年比94%であった。ただし、地元球団の優勝セール週の売上は前年比99%まで回復した。
衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・例年であれば、気温が下がってくるとコートなどの高単価アイテムの稼働が上向いてくるが、今年に限ってはなかなか購入には至っておらず、客の買い控えがみられる。

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・例年、景気の良くない時期であるが、今年は売上が前年を10%以上下回るなど、やや悪かった。原因としては、台風の影響により食材の値上がりが続いていることで、消費者が外食をする余裕がなかったためとみられる。また、連休中の好天でレジャー出費がかさんだことも影響したとみられる。さらに地元球団が勝ち進んだことで、試合のテレビ中継がある日は大幅に売上を落とした。周囲のレストランや飲食店からもため息が聞こえてきた。一方、9月以降、十勝や釧路の客からの予約がキャンセルとなっていたが、1月に延期されることが決まった。	
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・市内店舗の来客動向をみても、活気があまり感じられない。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・8月の台風の影響により農業関係の客の動きが縮小している。災害復旧の関係でビジネス需要は増加傾向にあるが、観光需要の減少を補てんするほどの伸びはみられない。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・8月末の台風被害に伴う鉄道の運行不能から2か月が過ぎたが、いまだ復旧のめどが立っていないことから、企業によっては札幌への出張を減らすなどしているようである。航空などへの振替需要も以前の申込状況を考慮すると、全体的に少ないと感じる。	
	旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・旅行の申込が以前と比べてがくっと落ちている。高単価商材や格安商材は好調だが、中間クラスの売上が不調である。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・夏以降、徐々に客の動きが鈍っている雰囲気があったが、台風災害のあったここ2か月は明らかに来客数が減少しており、販売実績にも影響が顕著に表れている。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・基幹産業である農業において、農産物の作況が芳しくないとの報道が続いたことで、客の消費マインドが低下している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・例年どおりのことではあるが、秋は夏よりも需要の減る時期であるため、景気はやや悪い。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比較すると1～2割程度売上が落ち込んでいる。例年、当業界の売上は夏場に微増して、秋以降は減少していくなど、季節に左右される傾向がある。また、景気動向にも左右されるが、当地域においては相変わらず景気が上向き兆しがみえてこない状況にある。	
	その他サービスの動向を把握できる者[フェリー](従業員)	来客数の動き	・観光シーズンが終了したことで、輸送量が著しく減少している。	
	×	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・漁業関係の不調による影響がみられる。沿岸地域の店舗では来客数、売上の減少が続いているほか、販促の際も価格の低い商材にしか客が反応しない。
	×	その他専門店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・5か月続いた景気の良い状態から、突然落ち込んだ。気候の急変による影響だけとは考えられないほどの落ち込みであり、理由が分からないことが問題である。
	×	観光型ホテル(役員)	来客数の動き	・台風による道路、インフラなどの被害に加えて、報道による風評被害が拡大しており、国内客、海外客とも観光客が大きく減少する状況が続いている。
企業動向関連 (北海道)	-	-	-	
	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・一時期と比べればやや円安傾向となっていることで、先行きに対する不安感がやや緩和されている。また、当地域は目立った荒天や地震もないため、市民生活が安定していることもあり、景気はやや良くなっている。	
	建設業(従業員)	競争相手の様子	・大手や準大手の建設会社の多くが、今年度の目標とする建築工事受注量を達成している。なかには、新規工事に対する職員配置が困難になっている企業もみられる。	
	建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間建築工事とも、受注量が順調に確保できている。また、建築工事については、引き合いが継続してみられることから、客先の設備投資意欲もうかがえる。	

	広告代理店（従業員）	それ以外	・地元球団の日本シリーズ優勝に伴い、流通業のセールを始め、飲食、ホテル業界などに経済効果が生じている。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・8～9月の台風災害に伴う復旧工事が行われており、売上増加につながっている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・客先の仕事量の増加に伴い、当社の販売量も増えており、景気はやや良くなってきている。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べるとあまり変化はみられないが、前年と比べるとやや売上が減少している。
	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・販売量が引き続き増加傾向で推移している。ただし、3か月前の販売量は前年比123%であったが、10月は110%となるなど、伸び率は縮小している。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・農産物や現場物件の動向はほぼ見込みどおりであったが、そのほかのスポット輸送などの動きがあまりみられなかったため、全体としてはそれほど変わらない。
	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・8月の荷動きの減少分を9～10月で一部リカバーできている。ただし、今後、年末にかけての動向には不安がある。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・台風被害による宿泊キャンセルなどによって、観光関連に悪影響が出ている。一方、住宅関連や公共工事関連は景気を下支えしている。また、地元球団のリーグ優勝によって、個人消費を中心に好影響がみられる。3か月前と比べると景気に大きな変化はみられない。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の建築において、9月はやや上向き傾向にあったが、10月に入ってからは停滞している。
	司法書士	取引先の様子	・依然として景気回復の兆しがみえない。新築のマンション着工も少なく、個人の住宅着工も芳しくない状況にある。
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・設備投資に前向きな客と慎重な客の二極化が進んでいる。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・台風による農業被害などのマイナス面と災害に伴う復旧工事のプラス面が混在している。
	司法書士	取引先の様子	・例年と比べて、不動産の売買、建物の増改築が少ない。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)			
	求人情報誌製作会社（編集者）	雇用形態の様子	・正社員求人が増加傾向にある。市場に人材が不足しているため、転職者を獲得しようとする企業が増えている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数は前年比マイナス9.7%と2か月連続で前年を下回っている。一方、有効求人倍率は前年比マイナス0.08%と6年9か月ぶりに前年を下回ったものの、1倍を超える高水準が1年6か月継続している。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・派遣ニーズの高まりに加えて、中途採用のニーズも高いまま推移している。特に営業職の求人が増えており、企業が拡大志向に変化している。また、当社で行う社員教育の受講ニーズも高まっている。業績の安定、売上拡大を視野に入れ、社員の質の向上を目指しているようである。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・台風による基幹産業へのダメージの影響が少しずつ緩和されてきていることで、求人件数に回復傾向がみられる。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が6年7か月連続で前年を上回るなかで、新規求人数が5か月ぶりに、月間有効求人数が7か月ぶりに増加に転じた。ただ、前年との比較では、新規求人数が全体で7.3%増加する一方で、正社員求人の増加は1.4%にとどまっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が増加に転じており、これまで長く続いた求職者の減少傾向にストップがかかっている。ただ、月間有効求人数の増加が求職者数の増加を上回ったことから、有効求人倍率は引き続き1.0倍を維持している。

	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・観光関連は活気があるが、地元住民が利用する商店街やスーパーは活気が感じられない。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・毎日多くの企業が求人のために来校するなど、企業の採用意欲は衰えていない。ただ、ディーラーなどの車関係の企業による来校が少ないことから、景気の良さはあまり感じられない。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・台風10号による被害の影響で、派遣、医療、加工・製造、小売といった募集広告売上高の上位4業種の売上が前年から10～30%減少しており、全体の売上も前年比92.5%と落ち込んだ。一方、災害復旧に伴い土建関連業種の売上が前年の約2.5倍となり、全体の落ち込みを若干緩和している。
x	-	-	-